

## 2023 年初級登山教室

### 実技・バリエーションルート・読図実技 I

日時 5月14日(日)

場所 早尾神社～千石岩～早尾神社

目的 読図講習実技

参加者 スタッフ N 森(講師)・ M 内・ T 本・ T 内・ H 川

受講生 S 藤・ T 本・ S 古(記録)

通過タイム

早尾神社 9:00～10:00 長等山テラス ～10:15 長等山ルート出合～11:15 千石岩～11:45 早尾神社

講習内容

1 皇子山公園駐車場にて、コンパスの使い方確認

- ・整置 地形図の磁北線と、コンパスのノースマークを合わせる。
- ・進行方向の確認 現在地と目標地点をベースプレートの辺で結ぶ。磁北線とノースマークを平行にし磁北と目標地点との角度を確認。
- ・身体の正面にコンパスを持ち、進行線に向かって歩き出す。

2 先頭を交代しながら千石岩を目指す。

- ・地形図で、現在地を確認、進む方向を修正しながら千石岩に到着。主な確認地点:長等山テラス、ゴルフ場下、ゴルフ場入り口
- ・谷筋の合流点、人工物、などを手がかりにすれば、現在地を確認しやすい。

一口感想

シトシト雨の降る中に行われた地図読み実践講習会でしたが、転倒などもなくみなさん無事に下山することができました。ありがとうございます。

地図読みに関しては勘違いや思い込みなどでルートを間違えたりがありましたがその間違いを認識していて、冷静に判断されていたと思います。

低山での地図読みはとても難易度が高く中々正解が見つからないですが根気よくやり込むしかないと思います。

僕はヒルにやられました。皆さん帰宅後の状況はどうでしたか^\_^  
皆さんお疲れ様でした。(H 川)

地図を読むにはまず地形に地図を合わせて位置確認から始めます。

その際に尾根と谷がどこにあるか傾斜はどのようになっているか、

また目印になるもの(送電線、建物、大きな岩等)があれば位置が特定しやすいです。

山行の途中で(休憩時など)なるべく現在位置の確認をすることをお勧めします。

地形図を開いておおよその位置を予想し、GPS のアプリで答え合わせをすると良いと思います。

読図も経験を重ねることで理解が深まります。(T 内)

地図を見てほしいの地形は分かっているつもりでも、今自分がどこに居るのか、どの方角に進めば良いかを考えながら歩くことはなかなか難しいと感じた講習でした。歩きながらピークや尾根の合流点、コルや谷の横断などポイントごとにそのことを確認しながら歩く習慣を身につけられるよう練習を積みましょう。(T 本)

低山といえども結構地形が複雑な部分もあり、難しかったのではないでしょう

か?今回は地図読みの練習ということで、GPS をなるべく使わず、紙地図を基本に歩きましたが、普段の山行では

GPS は活用してよいと思います。ただし GPS は現在地を点で示すだけなので、どのようにしてそこに至ったか、その都度確認して点と線をつなげるように意識すると、だんだんと先読みにもつながってくると思います。その際、特に重要になるのが尾根と谷の把握です。そのうち地形図が親しい友人の肖像画のようになってくると思いますので、何度もトライしてみてください。(N 森)

地形を見て地図上の現在地同定が出来ない自分の弱点を再認識しました。GPS に頼っていたってことですね。コンパスを切って目標の方向を定めて何処を通るか。

リーダーは、自分が行けたら良いとか、自分が行きたいルートで行くでは無く、パーティー全体の事を考えてルートを選定するのが理想の姿かなと、色々考えさせられました。(受講生 T 本)

なじみの長等山での読図講習でした。

地図上で現在地から目指す地点の方角を見る、とここまでは良いのですが、実際に歩き出すと目指す地点まで直線で行けるはずもなく、登山道は上り下りがあり、ぐねぐねと蛇行もし、ぐるりと巻き道にもなるので途中で現在地を確認しながら行く”ということが必要—、ということはわかりますが、大変難しかったです。前の地点からどれだけの時間歩いたか、UP・DOWN はどうだったか、付近の人工物は？、ゴルフ場や沢や道路の位置、または植生はどうか—といった周囲の状況から推測し、目指す地点へとコンパスを置きなおしてルートを定めていくということを繰り返しました。正直、登山道の書いてない地図を見ながらというのは、本当に難解極まりました。でも、難しいからこそファイトも湧いたりして、なかなか中身の濃い時間となりました。(受講生 S 藤)

個人的に、何回か歩いた道でしたが、いつも、GPS をたよりに歩いていて、紙ベースの読図をしながら歩いたことは、ありませんでした。実際の地形と、地形図を見比べながら歩くのは、時間がかかるし、今どこにいるかの判断は、非常に難しかったです。また、どれくらい歩いたかの距離感と地形図上の距離の感覚も、これからの課題だと認識しました。難しかったからこそ、山を楽しめた山行でした。近場の低山が手強く感じられた講習でした。

(受講生 S 古)

